

令和4年度第18回春の全国中学生ハンドボール選手権大会
新型コロナウイルス感染症拡大防止対策について（ガイドライン）

【チーム、チーム関係者(保護者等応援者)、大会役員、審判、競技・生徒役員、報道等】

本大会は、コロナ禍の中、本感染症対策ガイドラインに沿って実施します。
大会に参加する全ての者に於いて、発熱の有無を含めた症状の確認と有症状者への適切な対応を強く要望します。本ガイドラインは、日本スポーツ協会が作成した「スポーツイベントの再開に向けた感染症拡大予防ガイドライン」および(公財)日本ハンドボール協会が定める「～選手・スタッフ・関係団体のためのガイドライン～」を基に、現段階で得られている知見等によって作成しています。新規感染者拡大に対する警戒が必要であることから、来会者全ての健康の安全を最優先とし、感染症拡大を最大限に排除するものです。今後、知見等の集積および感染症拡大状況によって、見直すことがありますので御留意ください。

(1) 大会について

- ① 本大会は、入場制限をかけ一般観覧者の入館を禁止とし「無観客」とする。
- ② チーム関係者（保護者等応援者）は、1チームにつき50名（未就学児はカウントしない）までの入館を「許可」し、入館時にはチーム関係者（保護者等応援者）の名簿（氏名のみ）を受付に提出する。
※チーム関係者（保護者等応援者）名簿（氏名のみ）の記入用紙については、チーム宛にご案内いたしますので周知ください。
- ③ 開会式<アトラクション含>は「不実施」とし、代表者会議に先立ち開始式を行う（サブアリーナ）。
※出場男女各チームより、役員1名のみ出席とします。選手およびその他役員の入館は禁止とする。
- ④ 試合前練習会場割当ては「不実施」とする。
- ⑤ 交流試合は「不実施」とする。
- ⑥ 競技日程について、大会3日目3回戦まで女子試合を先行し、後に男子試合を行う。
- ⑦ 感染症拡大状況によって、大会中止に至る状況に該当した場合、大会前または大会中でも急遽中止せざるを得ない場合がある。
ア 政府による緊急事態宣言が発令された氷見市ならびに他都道府県で感染症が拡大し、富山県へ県外からの往来が拒否された場合は中止とする。
イ 大会期間中、複数の参加チームに集団感染の発生が確認された場合は、大会感染症対策本部に於いて、開催継続の有無について協議をする。

大会に参加する全ての者に於いて、感染者が出た場合はそれ以上に集団感染・感染症拡大を起こさないことや、特に選手やチームを不当に扱うことはせず、起因する一切の差別や誹謗中傷を絶対に生み出してはならないことについて、自覚し協力するものとする。

(2) 大会参加時の申合せ事項について（全ての者）

- ① 出場男女各チーム登録選手および登録外選手と、その保護者が本感染症拡大防止対策を確認

し、チーム責任者は同意を得ていること。また、感染の不安から参加を希望しないチーム登録選手および登録外選手については、無理に参加をさせてはならない。

② 以下の事項に該当する場合は、参加の見合わせを求めること。

ア 体調がよくない場合

イ 同居家族や身近な知人に感染が疑われる方がいる場合

③ 大会前の健康管理について2週間前より個人の体調を記録用紙に記録（各チーム様式または個人様式）し、健康管理を徹底してください（提出は求めない）。なお、体調不安（疑似）を感じる者は身近な医療機関に相談しPCR検査等を活用すること。

④ 大会前に37.5度以上の発熱、咳、鼻汁、咽頭痛、頭痛、倦怠感等の風邪の症状および味覚嗅覚障害を感じるなどの症状があった場合には、COVID-19と診断されているか否かに関わらず次のA、B、Cの条件を満たしている場合は大会への参加が可能。

A 有症状

発症日の翌日を1日目として7日以上経過、かつ症状軽快後（解熱剤を使用せず解熱）24時間無症状。

B 無症状

検体最終日の翌日を1日目として7日間経過後。なお、5日目に検査キットによる検査で陰性を確認した場合は、5日間経過後。

C 濃厚接触者

陽性者との最終接触日の翌日を1日目として5日間経過後。なお、2日目と3日目に検査キットによる検査で陰性を確認した場合は、3日目の結果確認後。

(3) 全会場入館について（全ての者）

① 健康チェックシートの提出は不要といたします。

② 発熱、咳、鼻汁、咽頭痛、頭痛、倦怠感等、感染が疑われる症状のない方。

※会場入口にてA I 体温検知カメラにて検温をすること。37.5度以上の場合は入館をお断りいたしますので、予めご了承ください。

③ 会場内では感染症対策（マスク着用、大声を出さない、手指の消毒等）にご協力ください。

必ずマスクをご持参していただき、会場内では飛沫感染予防のためにマスクの着用を強くお願いいたします。※健康被害が発生する可能性が高い場合は除く。

④ チームおよびチーム関係者（保護者等応援者）の導線を区別し、毎試合ごとに入場制限を行う。また、他の者との接触を極力避けるため、各チームおよびチーム関係者（保護者等応援者）のエリアを設ける。

【チーム入館について】

① 各日第1試合目については、開館時刻8:00より入館とする。

② 各日第2試合目以降のチームについては、前試合ハーフタイムの20分前からの入館とする（前試合開始5分後）。※チームでまとまって入館してください（登録外選手含む）。

③ 選手更衣室は、他チームとの接触を避けるためチームごとに用意いたします。また、試合前のユニホームの着替えは、前試合ハーフタイムのウオームアップが終了してから行ってください。

※消毒作業の都合により、短時間での利用を心がけてください。

④ 登録外選手については、チーム帯同を許可する。

⑤ 消毒願ひ

各チーム当該試合において、前後半終了時にベンチ消毒のご協力をお願いいたします。

※除菌シートは常置してありますので、役員の指示に従いご使用ください。また、後半消毒終了後、着替えを済ませ速やかに退館するよう心がけてください。

【チーム関係者（保護者等応援者）入館について】

① 当該試合開始予定時刻の 10 分前からの入館とし、コートごとに応援者席（主催者側誘導）を設定しています（鳴物禁止）。※出来る限り、まとまって入館してください。

② 消毒願ひ

各チーム関係者（保護者等応援者）は、当該試合終了後、固定席（自席）の消毒のご協力をお願いいたします（立見席不要）。

※除菌シートは常置してありますので、役員の指示に従いご使用ください。また、消毒終了後、速やかに退館するよう心がけてください。

(4) 競技上の留意点（選手、役員、トレーナ、競技役員）

① 十分な距離の確保

ア 感染予防の観点から周囲の人となるべく距離を空けること

イ 競技中以外でマスクをしていない場合には、十分な距離を空けるよう特に留意する必要があること

ウ 選手以外の役員等はマスクを着用すること

② ウォームアップを行う場合は、「3 密」を回避し大きな声を出さないようにする。

③ 試合開始および終了後に、選手同士で素手でのハイタッチや握手・抱擁等を行わない。

④ 競技中の選手間のコミュニケーションのための声掛け、発声については妨げないが、プレー中断時などは、相手との距離や飛沫を考慮し、一程度の距離を保つことや向き合わないなどの工夫をする。また、ベンチにおいても、得点のたびに立ち上がって大声をあげたり、叫んだりしないこと。

⑤ タオルの共用はしないこと

⑥ スクイズボトル等の飲料の回し飲みはしないこと

⑦ 身体接触を伴う競技特性を理解し、ハーフタイムや競技終了後に洗顔、うがい、手洗い、手指消毒をするなど、感染防止に努めること

⑧ 監督（指導者）からの指示などの際は、選手との距離（できるだけ 2m、最低 1m）を意識する。

⑨ 競技中について以下の項目を厳守すること。

ア 素手でのハイタッチや握手等は控える

イ 円陣を行う際の声出しは、可能な限り選手同士の間隔を取り、最短時間で済ませる

ウ 競技中の選手間のコミュニケーションのための声掛け、発声については妨げないが、プレー中断時などは、相手との距離や飛沫を考慮し、一程度の距離を保つことや、向き合わないなどの工夫をする

エ 手指衛生に努めた上、共用物品の使用は可能な限り控え、共用物品については可能な限り消毒を行うこと。

オ 交代選手等が控える場所では、可能な限り、マスクを着用するとともに、選手らの間隔を取り、接触を避ける。なお、競技特性上、選手交代が目まぐるしく行われるので、交代選手にとっては、その限りではない。

カ ハーフタイムや競技終了後に、更衣室に引き上げる場合は、動線が混雑しないよう努めること

- ⑩ 鼻水、唾液などが付いたゴミは、チームおよび個人が準備した袋に入れ、密閉状態に縛ったうえで持ち帰ること

(5) 大会期間中に選手・役員に感染が判明した場合の対応

- ① 大会期間中（出場辞退に関して）

選手・役員は、必ず当日の朝検温を行い、また会場入口でも検温を行う。

37.5 度以上ある場合や体調不良者について、以下のように取り扱うこととする。

ア 37.5 度以上ある場合、その当該者は入館できない。

※陽性者（選手）は、チームの責任において帰宅（保護者の車）するものとする。

イ 参加チームに感染および濃厚接触者の疑いが生じ、安全性の確認が間に合わない場合には、出場辞退を勧告する。

ウ 体調不良者に該当する選手や役員が生じた場合は、症状等の把握を大会感染症対策本部で協議し、大会への出場の有無を決定する

※「体調不良者」とは、以下の目安に該当する方と考えられます（厚生労働省発表）

- ・息苦しさ（呼吸困難）、強いだるさ（倦怠感）、高熱などの強い症状のいずれかがある場合
- ・重症化しやすい方（高齢者や基礎疾患がある人）で、発熱やせきなどの比較的軽い風邪症状がある場合
- ・比較的軽い風邪が続く

エ 濃厚接触者の認定については、感染状況によって判断が遅くなることが考慮されるので、大会感染症対策本部にて濃厚接触者疑いとすることができる。その判断は、陽性となった人と一定の期間に接触があった人で、症状出現の 2 日前からマスク無しで 1m 以内の距離で 15 分以上会話した者を基準とする

※上記、イ・ウ・エについては、検査キットで陰性が証明されれば、当該者を除きチームは出場できる。

オ 試合の成立・不成立

陽性者、濃厚接触者、体調不良者の判明が確認され、出場辞退を勧告した場合は、対戦チームを不戦勝（12-0）とする。

カ 大会期間中、複数の参加チームに集団感染の発生が確認された場合、大会感染症対策本部に於いて、開催継続の有無について協議をする。※概ね参加チームの 4 分の 1 以上

- ③ 参加チームに於いて、検査キットを準備してください。

- ④ 大会終了後、新型コロナウイルス感染症を発症した場合は、所属する学校や行政機関の指示に従うこととする。

(6) 審判員、競技・生徒役員などの行動管理

- ① マスクを持参すること（参加受付時や着替え時等のスポーツを行っていない際や会話をす

- る際にはマスクを着用すること)。
- ② こまめな手洗い、アルコール等による手指消毒を実施すること。
 - ③ 他の参加者、主催者スタッフ等との距離（できるだけ2 m以上、最低1 m）を確保すること（障がい者の誘導や介助を行う場合を除く）。
 - ④ 試合中にベンチでも選手関係者席においても、大きな声で会話、応援等をしないこと。
 - ⑤ 大会前後のレフェリーミーティングは「3 密」を回避し、書面またはメールなどにより情報共有する。更衣室内では15分以上にならないよう留意すること。
 - ⑥ レフェリーについては以下の注意をすること。
 - ア 控室は密を避けるため、当該試合と次の試合の2ペアのみが使用し、他のレフェリーは競技会場内での指定された席で待機する。
 - イ 選手、チーム役員・競技役員との握手やハイタッチ等を行わない。エアタッチや会釈で済ませる。
 - ウ 通信機器等を使い回すときは、必ずウイルス除去機能のあるウェットタオル等を使用する。
 - ⑦ テーブル役員については以下の注意をすること。
 - ア 必要最小限の人員で対応。(TD2、SK、TKの4名)、ジャッジズテーブルの後方にMOを配置する。
 - イ 握手等はレフェリーと同様行わない。
 - ウ 筆記用具等は、個人のもを持参するが、用意されたものを使用する場合は必ず使用後、消毒を行うこと。テクニカルオフィシャルはストップウォッチ、ホイッスルも持参したものを使用。テーブルの笛は、電子ホイッスル、ホーンが望ましい。
 - エ テーブルに置く機材（筆記用具なども含む）は試合ごとに消毒すること。
 - ⑧ 館内では、発行されたIDカードを、常に身につけておくこと。
 - ⑨ 選手に感染者が発生した時の当該試合を担当した審判員については、マスクの着用はないものの概ね2 m以上の距離を取っていることや、15分以上会話もしていないことから、濃厚接触者疑いとしては判断しない。また、ジャッジズテーブル担当者については、マスクを着用しており、濃厚接触者疑いとは判断しない。毎日の健康チェックは怠らず、不調があればすぐに届け出るものとして、感染拡大防止に努めること。
 - ⑩ 大会終了後、新型コロナウイルス感染症を発症した場合は、所属長や行政機関の指示に従うこととする。

今後の新型コロナウイルス感染症拡大状況によっては、変更の場合もある。

(公財)日本ハンドボール協会、医事委員会及び競技本部監修のもと作成したものである。

以上